

# 専念寺通信

## 専念寺通信

五月号 (NO. 81)

新緑のきれいな、気持ちのよい季節がやって参りました。昨年、枝おろしをした専念寺のいちょうの樹から、早くもちいさな葉が芽吹き始めています。樺は、枝の高いところから緑が次々に伸びています。本堂前のしだれ桜の葉も、そのみずみずしい色で、私たちの目を楽しませてくれます。みなさま、おかわりなくお過ごしですか。

### ☆施餓鬼会法要

今年も5月27日に施餓鬼会法要を行ないます。**施餓鬼会**は、飢餓に苦しむ餓鬼に飲食(おんじき)を施す法会(ほうえ)です。その由来をいま一度お話しいたします。お釈迦さまの弟子、**阿難**が、ある日の夕暮れ時、瞑想していると、口から炎を出す鬼(**焰口餓鬼**・えんくがき)が現われます。鬼は、阿難の生命があと3日であると告げて消えます。阿難は苦悩し、お釈迦さまのもとに教えを乞に行きます。お釈迦さまの教えに従い、阿難は、餓鬼道に堕ちて苦しんでいる焰口餓鬼のための法要をいとなみました。その結果、飢えに苦しむすべての餓鬼は救われ、阿難もまた、福德寿命を得ることができました。この法要の意味は、ただ、餓鬼道に堕ちているひとを救うために飲食を施すだけでなく、供養を通して、いま、困難な状況にあるこの世のすべての存在に思いを致し、あわせて私たち自身が救われることを願うという点にあります。

### ☆法要の様子

施餓鬼会では、まず、住職(導師)が本尊に向かい読経をします。次に転座して餓鬼棚にむかい、「表白(ひょうびやく)」を読みあげます。表白は、阿難尊者の故事による施餓鬼会の由来と、とり行ないつつある

大法要の意味を語るものです。当山の開山上人、歴代諸上人の名をあげ、総檀信徒各家先祖代々の追善菩提、過去帖所載の所精霊、昨年からの新亡諸霊、そして三界万霊有縁無縁の諸精霊の冥福をすすめるために法要をおこなうことが告げられます。表白がおわると、導師は「**敬礼六位**(きょうらいろくい)」を唱えながら、**散華**(さんげ)を撒きます。「**敬礼六位**」とは**十方の仏、法、僧、釈迦牟尼仏、観音菩薩、阿難陀尊者**、の六位の名号をとねえ敬礼する御経のことです。また、餓鬼棚には、五如来の名が書かれた幡(はた)があります。五如来とは「**宝勝如来**」「**妙色身如来**」「**甘露王如来**」「**広博身如来**」「**離怖畏如来**」を言います。「**宝勝如来**」には、円満な心を授けてくださいと、「**妙色身如来**」には、恐ろしい姿を消し去り、ふくよかな姿を授けてくださいと、「**甘露王如来**」には、不死と安堵を授けてくださいと、「**広博身如来**」には、餓鬼の喉をひろげ飲食をとらせてくださいと、「**離怖畏如来**」には、すべての恐れを消し、餓鬼の世界から解き放ってくださいと、それぞれ祈願します。次にしき

みの枝に浄水をつけ三界万霊の位牌に、そして各家の塔婆に水むけをします。「付施餓鬼会」としてお書きした追善菩提の施主の皆様のお名前を読み上げます。こうして、**施餓鬼会**という大法要は、ご先祖の供養をしつつ、同時に施しの心の大切さ、慈悲の心の大切さをともに確かめ合い、この世に生を受けたすべてのものの救いを祈願し、また、自身の心にある悪しきものを取り除くことを祈願する、清浄な時間なのです。



平成19年5月1日

大黒